

## (30) いぬまき

ア 各病害虫の防除

ケブカトラカミキリ

モンアシブトゾウムシ

## ア 各病害虫の防除

### 【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

### ケブカトラカミキリ

---

(予防に関する措置)

- 1 樹木の移動に際しては、被害木が混入しないように十分注意する。  
※県木であるいぬまきにおいて害虫「ケブカトラカミキリ」の被害が拡大している。被害の多くは、人目につきにくい放任ほ場や庭木・生け垣で発生しており、幼虫による加害は外部から認識できないため、発見が遅れがちである。成虫が発生するときに樹皮を食い破ってできる直径3ミリメートル程度の穴に注意するなど、早期発見を心がけ、予防の措置をとることが重要である。防除適期は成虫であるが、樹体外で活動する期間が短く、樹体外に脱出するとその日のうちに繁殖を開始することなどから、適切な判断に基づく適期防除が重要である。
- 2 林縁部などやや明るい環境にあるイヌマキは特に被害を受けやすいので、早期発見に努める。
- 3 飛翔による移動分散距離は500m程度であり、近隣に被害木がある場合は注意する。
- 4 伐採木からも脱出するため、伐採した被害木は脱出開始前に処分する。

(判断、防除に関する措置)

- 1 被害木は樹皮の隆起が見られ、新梢数が減るので、外観の変化を観察し樹皮下の幼虫被害を早期に発見する。  
※老木の場合は隆起が見にくい場合がある。
- 2 薬剤散布の適期は4月から6月の成虫脱出時期である。脱出開始時期は年により変動するので、「けぶかとらなび」により脱出開始時期を推定して樹幹に散布を始める(詳細は農林技術会議資料「[イヌマキの幹を加害するケブカトラカミキリの生態と防除](#)」平成28年3月参照)。
- 3 脱出した成虫は樹幹部を積極的に歩き回るので、観察により早期発見する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 産卵を防ぐために、樹幹部に緩めに防虫ネットを巻き付ける。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 脱出開始時期に薬剤を施用(散布)する。  
※シミパイン乳剤は新芽にかかると薬害が発生するおそれがあるので、樹幹部に散布する。
- 2 幼虫に対しては、幼虫の成長時期である6~8月に樹幹注入剤の使用を検討する。

### モンアシフトゾウムシ

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生初期に薬剤を施用(散布)する。